



ごあいさつ

2019(令和元年)年6月、当院放射線科では、従来から行われてきた血管系と非血管系IVR（画像介入性放射線科診療）を独立した専門外来部門として改編し、最新の血管撮影装置、X線透視装置、超音波検査装置などの再整備を進めてきました。診療におきましては、これらの機器から得られるリアルタイムの画像をもとに、一人ひとりの患者様にとって最適な機器（カテーテル、細径内視鏡、針、チューブ等）を選択し、最も望ましいIVRが実施されるよう努めています。

IVRは体に傷跡がほとんど残らない治療であり、患者様にとっては体への負担が限りなく少ない心身に優しい低侵襲性治療です。2020年1月には、日本インターベンショナルラジオロジー（IVR）学会から専門医修練施設として認定されました。

今回のテーマである「CTガイド下経皮的（けいひてき）膿瘍（のうよう）ドレナージ」は、CT透視の画像を見ながら膿瘍へ刺入された針の、針穴から入れるガイドワイヤーに被せて挿入するドレナージチューブで膿を体の外へ排出させる治療法です。リアルタイムに針の刺入を確認することができるため、安全面からもCT透視下のIVRは非常に有用です。この手法により、腸腰筋（ちょうようきん）膿瘍をはじめとする種々の身体内膿瘍において、ドレナージチューブの留置が外科的に困難な症例においても、切開せずに治療することが可能となります。また治療の侵襲性が低いことから、外来で経皮的膿瘍ドレナージを行なうことが可能となる場合もあります。IVR治療のご要望がございましたら、当院の地域医療連携室または、お電話にて当職までご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。



医療法人社団 公仁会 榎殿順記念病院 院長
日本IVR学会専門医

放射線科 内 藤 晃